

# 舞台公演

-- 第6回・狭山市民芸術祭から --



ヤングフェスタ（2月26日）  
市民会館大ホール



----- さやま・文化の息吹 -----

## 29年の月日と 44の瞳 ～狭山市三曲連盟～

「思えば遠くに来たもんだ…」というような歌があったか。狭山市三曲連盟も今年で満29歳になる。

何事もいつの世も、次代を担う子供は宝であるが、当連盟は早い時期から子供の育成に力を入れてきた。手書きの案内書を作って、始めて学校にアプローチを掛けた時は、とても冷やかに白い目で見られた。私達もまだ若く(^\_^;)無我夢中の模索状態であったのだから無理もない。

14年程前、娘が小学校6年生の時、保護者会の依頼で演奏をする機会があったが、その時に初めて子供達の体験学習にとり組み、その方向が先生にも受け入れられて、以来、多くの学校から依頼が来るようになった。(この体験は現在の文団連「文化体験フェスタ」の発想の原点にもなっている。)

その後、市教委の理解、国の政策が追い風となり、ここ6年ほどは市内小学校16校・中学校4～5校で、毎年体験学習を実施してきた。

一方、連盟の各先生の弟子である子供達にも、定期演奏会で「子供合同曲」の枠を設け、各社中の垣根を超えて安価で合奏出演が出来るようにした。

全てが、試行錯誤の連続だった。

平成17年度取り組んだ文化庁の事業「伝統文化子ども教室」は、私達自身の29年間の子供育成経験の集大成ともなった。

約7ヶ月間、22人44の瞳と向き合った。

その瞳は決して澄んでばかりいたわけではない。時として陰もあり、涙もあった。しかし3月11日の修了式に揃った44の瞳には、一人残らず澄んだ潤いと暖かさ、凛とした自信がみなぎっていた。紛れもなく文化が命を宿した瞬間だった。私達の命が子供に受け継がれるように、文化もまた確実に子供に受け継がれていく。そう確信して、これからも講師が心ひとつに、多くの瞳と向き合ってゆこうと思う。



狭山市三曲連盟会長 横山 美衣